

3-2 危険な場所を知る

土砂災害や水害が発生しやすい「危険な場所」を知るには、どうしたらいいのだろう。

■危険な場所を知るのは、いのちを守るために大切なこと

川の河口近くで大地震にあったとき、そこは津波の危険があることを知っていれば、すばやく高台に避難することができます。崩れやすいがけがどこにあるかわかっていれば、なるべく近づかないように気をつけることができます。大雨が降ったときも、家の近くの川が、あふれやすいことを知っていれば、早めの避難を心がけることができます。

このように、「どこが危険なのか」を知っておくことは、自然災害からいのちを守るために、とても大切なことです。災害の危険がある場所を知るには、いろいろな方法があります。

●ハザードマップでわかる危険な場所

全国の市町村では、大雨のときに土砂災害や水害が起きるおそれがある場所や、大地震や火山の噴火があったときに被害が出る範囲などを示した、ハザードマップとか防災マップなどとよばれる地図をつくっています。

庄内町では、最上川・京田川の洪水と、庄内平野東縁断層帯(12ページを見よう)の地震を想定したハザードマップ、それに町内で土砂災害警戒区域に指定された地区ごとの、土砂災害を想定したハザードマップをつくっています。ハザードマップは各家庭に配付されるほか、役場にも置いてありますので、必ず手に入れて、保護者といっしょに中身をよく見ておきましょう。避難所の位置なども、のっています。

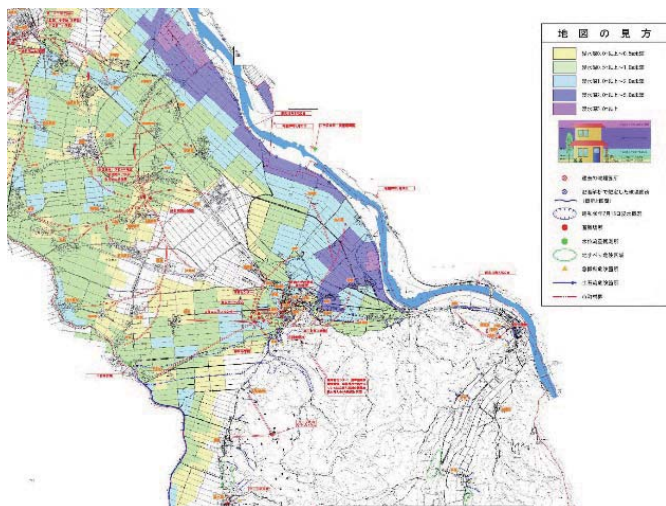
土砂災害警戒区域とは、国の土砂災害防止法(通称)という法律によって、土砂災害が発生するおそれがあるとされた区域のこと。なお、都道府県ごとの土砂災害警戒区域の地図は、国土交通省のホームページでも見るすることができます。

http://www.mlit.go.jp/river/sabo/link_dosya_kiken.html

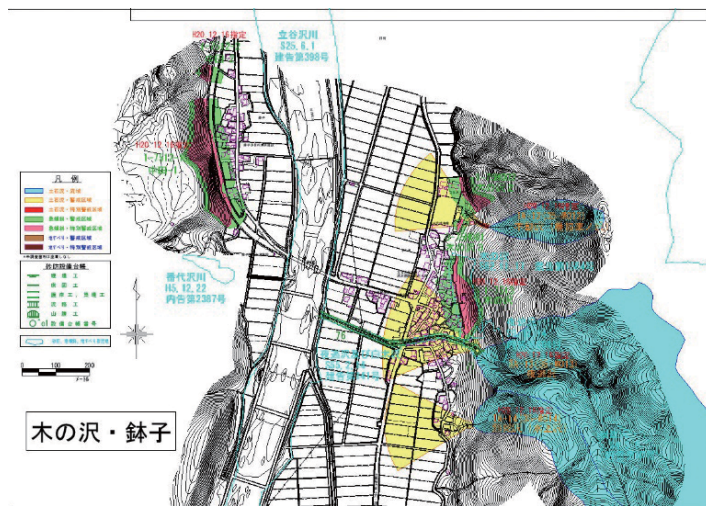
(キーワード：国土交通省、砂防、土砂災害危険箇所、都道府県)



庄内平野東縁断層の活動を想定した地震ハザードマップ



最上川の洪水ハザードマップの一部



木の沢・鉢子地区の土砂災害ハザードマップ

●^{かんばん}こんな看板に注意

災害の危険がある場所には、こんな看板が立っています。家の近くのほか、出かけた先にもこのような看板がないか注意しましょう。



土砂災害が起きやすい場所で 土砂災害が起きやすい急傾斜地 「洪水時の最上川の水位とは異なることを示す看板 (がけ)であることを示す看板 らん等の危険度」を表した看板

●インターネットで、今、どこが危険なのか調べる

大雨で水害が起きそうなど、災害発生の恐れがある場合、町は防災無線(防災広報しょうない)や広報車を使って町民に危険を知らせます。

一方、インターネットを利用すれば、町民のほうから住んでいる地域の最新の気象情報や災害情報を手に入れることもできます。これらのホームページのアドレスはスマホやパソコンに登録しておく、大雨などで不安を感じたら、自分から積極的に、注意報や警報が出ていないか調べるようにしましょう。

防災無線(防災行政無線)は、屋外のスピーカーから地域に防災情報を伝えるため、大雨のときなど、スピーカーの音が聞きづらいこともあります。
庄内町では、無線放送から24時間以内なら、電話で放送の内容を聞きなおすことができます。
○庄内町防災無線テレホンサービス
電話：0234-56-3241

★庄内町と周辺の災害情報を調べることができるインターネットのホームページ



こちら防災やまがた!
<http://www.pref.yamagata.jp/bosai/>
県内の災害・防災・気象情報、県の防災対策など。



山形県 河川・砂防情報
<http://www.kasen.pref.yamagata.jp/>
地域ごとの水害や土砂災害の防災情報、気象情報、各河川の水位など。



新庄河川事務所 立谷沢川砂防出張所
http://www.thr.mlit.go.jp/shinjyou/05_jimusho/shucchouji/tachiyazawa/tachiyazawa.html
たちやざわ 立谷沢川の土砂災害情報や、立谷沢川流域の砂防事業について。



さかた 酒田河川国道事務所
所 <http://www.thr.mlit.go.jp/sakata/>
庄内平野を中心に最上川流域の災害情報や気象情報。

砂防資料館に行ってみよう (電話0234-56-2050)

かりかわえき 狩川駅から徒歩5分の、新庄河川事務所立谷沢川砂防出張所にある砂防資料館では、立谷沢川のむかしの土砂災害や、立谷沢川の流域で続けられている砂防(土砂災害から地域を守るためのさまざまな対策や工事など)について紹介する展示を行っています。手でさわって実験できる模型もあります。行く前に連絡すれば案内や解説もしてくれます。

